

## 令和5年度障害者支援施設等デジタル技術等活用支援事業 【ご報告】

令和5年度障害者支援施設等デジタル技術等活用支援事業の補助金を活用させていただき、かがわの家では眠りスキャンを導入しました。

### —導入目的—

かがわの家は重度の障がいを持つ方の暮らすグループホームです。意思を言葉にすることの難しい利用者の方の食事・睡眠・排泄は生活していく上で大切な支援となります。その中の一つ、睡眠について“睡眠時の状態をリアルタイムで確認すること”“睡眠状況に合わせた的確なケアを行うこと”“体調の変化の早期発見すること”を実現することを目的として導入しました。

### —導入後の職員の声—

○夜間の睡眠状態の把握だけでなく、眠りが浅い時間が続いた時にトイレ誘導をしたり、居室の温度を調整する等、快適な睡眠環境の構築に役に立っています。また、離床が分かるので、転倒等の事故防止にも重要な役割を果たしていると感じています。

○呼吸日誌、心拍日誌のページでは、低い数値から高い数値まで色分けされた状態で把握できるので、この時間から色が違う、標準の数値から変化している等、体調の変化が起きたときに気がつくことができました。

○夜間に目を覚まされる回数が多く、十分な睡眠時間を得られているのか確認が必要となった際、眠りスキャンを導入することで、睡眠時間の総計が一目瞭然の形で確認でき、正確な睡眠状況の把握に繋がりました。

○体調の変化、睡眠時の様子が分かることで、状態の把握がしやすくなりました。時々の実情と違う場合もあるものの、データとして見やすく分かりやすいです。短いスパンだけでなく長期的に見て、ご本人の変化にも「いつもの状態」がわかるようになりました。

このように職員の声からも眠りスキャンを導入したことにより、以前よりも安心して支援することができていることが伺えます。今後もより豊かな生活のために必要な支援を考えていきたいと思っております。

社会福祉法人雲柱社  
かがわの家